

おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

— 応じる力の原点は —

NO. 11



着替えたり、ごはんを食べたり、おしっこやウンチをしたりといった基本的な生活習慣、「一人でできるようになってほしい」というのは誰もが願うことです。この時期、子どもの道具を準備しながら、「どうかな〜」と期待と不安がよぎる瞬間が…。とはいえ、一足飛びに進むことではないですよ。今働きかけていることを、コツコツと積み上げていくことが、いちばんの近道だと信じて、子どもが困らない方法を考えていきましょう。

一人でできるようになるまでには、その子に合わせたいくつもの階段があります。最初の一段目、言うまでもなく、まずは全て大人がやってあげることですね。着替えは100%大人がやってあげ、ごはんは食べさせてあげ、汚れたらおむつを交換する。この繰り返しですが、ここに二段目の準備があります。忙しい時間だと、そう丁寧にはできませんが、「ズボン履こうね」「おいしいでしょ」「お尻すっきりしたね」と、大人の温かい手と声を感じながら、身を委ねる心地よさを、子ども達にはたくさん経験してほしいなと思います。そして次の二段目に進んでいきます。『大人の働きかけに応じる段階』です。脱がせようとする自分から両手を挙げてお母さんに協力してくれる姿。スプーンを口に持っていくと、そこに口を合わせようとする姿。オムツを履かせるために広げると、自分で足を持ち上げてくる姿。100%やってもらっていた姿から、少しずつ共同作業に変わっていきます。この二段目、じつはとっても大切な時間なんです。子どもから大人の動きに合わせてようとしてくれているのですから。“右足を入れたら次は左足”と、調子を合わせてくれると履かせるのもラクですよ。呼吸が合ってくるとキャッチボールもおもしろくなってきます。

そう、生活習慣のことに親子であくせく取り組むことが、『人に合わせる』『働きかけに応じる』といった“コミュニケーションの原点”に水を注ぐことになっていきます。新しい出会いがあるこの時期、「一人でできてほしい」という思いが強くなりがちですが、あえて向かい合ってやりとりをしてみることで、次のステップにつながる土壌作りにもなります。もう一度しっかり教えていくことにもなりますから、身に付いてきたことを更に確かなものにしていきます。

そんな力が豊かに育ってくると、「ここ持ってごらん」「ここ引っ張ってみて」といった促しに応じられるようになり、「ここで待っててね」「手をつないでいこうね」といった声かけに耳を傾けられるようになり、働きかけを受け入れる構えが広がってきます。人からいろいろなことを学び吸収する姿勢が作られていくのです。

そして、これは小さい子への対応で終わるものではありません。幾つになってもじつは同じです。できることが増えていても、いろいろなことが自立してきたとしても、新しいことにチャレンジするときには、まずは先生や先輩にやってもらおうところから始まると思います。手伝ってもらいながら、少しずつ手を引いていってもらって、少しずつ自分のものにしていくのが気持ちいいですよ。『学ぶ』って、その繰り返しなのではないでしょうか。

それから…「嫌だ嫌だ」を連発して、今は上手くやりとりができない子もいると思います。NOはYESの入り口ですよ。意識しているからNOを出す。リアクションマインドは十分ですから、応じる力（YES）に少しずつ近づいてきている証拠です。（H29. 4）K

